

公開実用 昭和63- 111810

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63-111810

⑬ Int.Cl.⁴

A 45 D 33/00

識別記号

庁内整理番号

P-6671-3B

⑭ 公開 昭和63年(1988)7月18日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 気密性コンパクト容器

⑯ 実 願 昭62-1445

⑰ 出 願 昭62(1987)1月8日

⑱ 考 案 者 袴 田 征 一 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研究所内

⑲ 出 願 人 株 式 会 社 資 生 堂 東京都中央区銀座7丁目5番5号

⑳ 代 理 人 弁 理 士 竹 内 裕



明 細 書

1. 考案の名称

気密性コンパクト容器

2. 実用新案登録請求の範囲

- (1) 本体(10)の一侧に螺着され他側を本体(10)に開閉自在にロックする蓋体(15)の内面中央に筒体(16)を植設し、該筒体(16)に嵌合する嵌合筒体(20)を中蓋(18)の一側面中央に植設し、中蓋(18)の他側面に中皿(12)のフランジ又は本体(10)の上面に密着する弾性パッキン(19)を配設すると共に、中蓋(18)を弾力性を有する材質で形成したことを特徴とする気密性コンパクト容器。
- (2) 中蓋がポリオレフィン系樹脂からなることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載のコンパクト容器。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この考案は、アイシャドー、アイライナー、ファンデーション、おしろい等の固型粉末化粧料を取

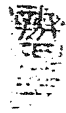


納するコンパクト容器に関し、特に収納された化粧料を気密に保持し得るコンパクト容器に関する。
(従来 of 技術)

従来、アイシャドー、アイライナー、ファンデーション、おしろい等の各種の固型粉末化粧料を収納するコンパクト容器であって、化粧料の揮発を防止したり、化粧料の粉末が容器から逃出するのを防止したり、或は内部に水が入り込むのを防止する等の目的で本体と蓋との間に弾性パッキンを介在させて気密性を保持するようにしたコンパクト容器は公知である

しかしながら、かかるコンパクト容器にあっては、本体の一側に蓋が枢着されている関係上、蓋の開閉時に蓋によって弾性パッキンに負荷される押圧力が枢支部から蓋の開閉端に向かって段階的に作用し弾性パッキンを変形させる為、気密性が減退して来るといふ欠点があった。

そこで、特公昭58-24125号公報に開示されるように(第4図参照)、蓋(1)の内面に中蓋(2)を一定の空隙(3)を設けて揺動自在に支持さ



せ、閉蓋時に中蓋(2)を揺動させることによって蓋(1)の傾動にかかわらず、弾性パッキン(4)と本体(5)との押圧が全体に均一となるようにしたものが提案された。

(考案が解決しようとする問題点)

しかしながら、かかる構造のコンパクトにあつては、蓋の内面に中蓋を空隙を設けて揺動自在に支持させなければならぬため、蓋の構造や中蓋の取付が面倒になると共に、中蓋による弾性パッキンへの弾力的な押圧力を得るために、中蓋と蓋との間に板バネを介挿する必要があり、このような板バネの介挿は更に作業を面倒とし作業性の低下が避けられなかった。

この考案は、中蓋を蓋の内面に嵌合手段で取り付けることにより取付構造を簡易とし、面倒さをなくすと共に、中蓋自体を弾性材料で形成することにより弾性体の介挿を不要にせんとするものである。

(問題点を解決するための手段)

上記問題点を解決するために、この考案が採っ



た手段は、本体(10)の一側に螺着され他側を本体(10)に開閉自在にロックする蓋体(15)の内面中央に筒体(16)を植設し、該筒体(16)に嵌合する嵌合筒体(20)を中蓋(18)の一側面中央に植設し、中蓋(18)の他側面に中皿(12)のフランジ又は本体(10)の上面に密着する弾性パッキン(19)を配設すると共に、中蓋(18)を弾力性を有する材質で形成したことを特徴とする。

(作 用)

蓋の内面に植設した筒体に中蓋中央に植設した嵌合筒体を嵌合して固着するので、中蓋の取り付けが容易であると共に、中蓋自体の弾力性により弾性パッキンと本体との押圧を全体に均等化させることが出来、弾性パッキンの変形を防止出来る。

(実施例)

以下に図面を参照しつつ、この考案の好ましい実施例を説明する。図において(10)は、コンパクト容器本体であり、中皿(12)を収納する凹部(11)を有する。凹部(11)に嵌挿される中皿(12)内には粉末化粧料(13)が固型状態で収納されており、更



に外周縁に本体(19)の上面を被覆するフランジ(14)を備える。

(15)は蓋体であって、本体(10)の一侧に蝶番機構により開閉自在に枢着され、他側は適宜のロック機構により本体に開閉自在にロックされる。蓋体(15)の内面中央には、短い筒体(16)が植設され、該筒体(16)の先端外周には係合突起(17)が圍繞して形成される。

(18)は中蓋であって、薄い板状をなし、本体(10)側の表面外周縁に前記中皿(12)のフランジ(14)上面に密着する弾性パッキン(19)が環状に取り付けられる。中蓋(18)の蓋体側表面中央には短い嵌合筒体(20)が植設され、該嵌合筒体(20)の内周面先端に前記筒体(16)の外周突起(17)に係合する内周突起(21)が形成される。そして、この嵌合筒体(20)を筒体(16)の外周に嵌挿し突起(17)(21)に係合して中蓋(18)が蓋体(15)に固着される。中蓋(18)と蓋体(15)との間には、中蓋(18)の弾力的な変形を許容するために若干の間隙(22)が形成される。中蓋(18)はポリプロピレン、ポリエチレン等のポリ



オレフィン系樹脂若しくはその他の弾性変形可能な材質で形成される。尚、筒体(16)と嵌合筒体(20)は挿着を逆にして筒体(16)の内部に嵌合筒体(20)を嵌挿しても良いことは勿論である。

第1図の開蓋状態から、第2図の閉鎖状態に移行するとき、蓋体(15)は本体(10)との枢着部から傾動し枢着側の弾性パッキン(19)が先に圧縮され始める。このとき、中蓋(18)が弾力的に変形して弾性パッキン(19)の圧縮力を吸収し、弾性パッキン(19)を開口部へ向かって片寄せるような変形が防止される。そして、閉蓋時には、弾性パッキン(19)全体をフランジ上面に均一に押圧し、化粧料(13)を気密に保持する。

中蓋(18)は前述したように、その中央で蓋体(15)に固着されている為、蓋体(15)の変形に関係なく弾性パッキン(19)に対しても均一な押圧力を負荷することが出来ると共に、ポリプロピレン等のポリオレフィン系樹脂で形成されている為、乳化系化粧料の透過揮散を防止することが出来る。又、中皿は金属製若しくは合成樹脂製のいずれであっ



ても、その外周のフランジ(14)に弾性パッキン(19)が密着している為、より高い密封性を得ることが出来る。

第3図はこの考案の一変形を示すものであって、本体(10)の一侧にパフ等の塗布手段(23)を収納するための凹部(24)を延設し、該凹部(24)を被覆するように蓋体(15)を側方へ延設したものであり、その他は第1、2図に示すものと同様である。

4. 図面の簡単な説明

第1図はこの考案に係るコンパクト容器の開蓋状態を示す縦断面図、第2図は同閉蓋状態を示す縦断面図、第3図は一変形を示す縦断面図、第4図は従来のコンパクト容器を示す縦断面図である。

- | | |
|-----------|-------------|
| (10)…容器本体 | (11)…凹部 |
| (12)…中皿 | (13)…化粧料 |
| (14)…フランジ | (15)…蓋体 |
| (16)…筒体 | (17)…外周突起 |
| (18)…中蓋 | (19)…弾性パッキン |
| (20)…嵌合筒体 | (21)…内周突起 |
| (22)…間隙 | (23)…塗布手段 |

公開実用 昭和63- 111810

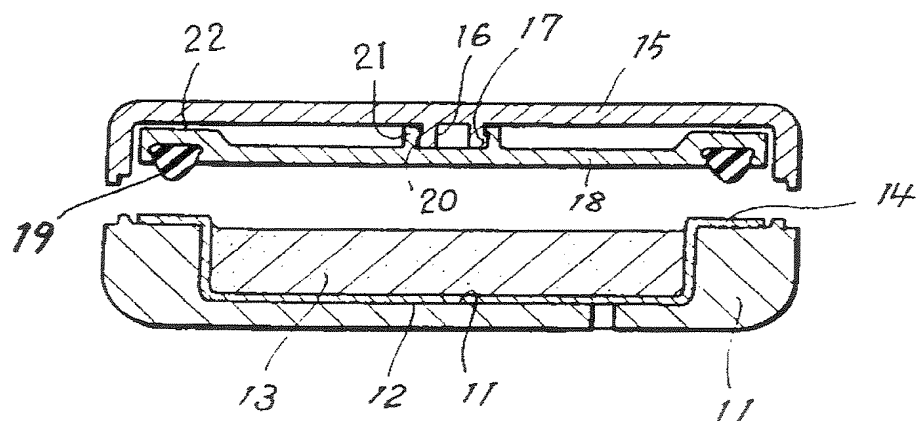


(24)… 四 部

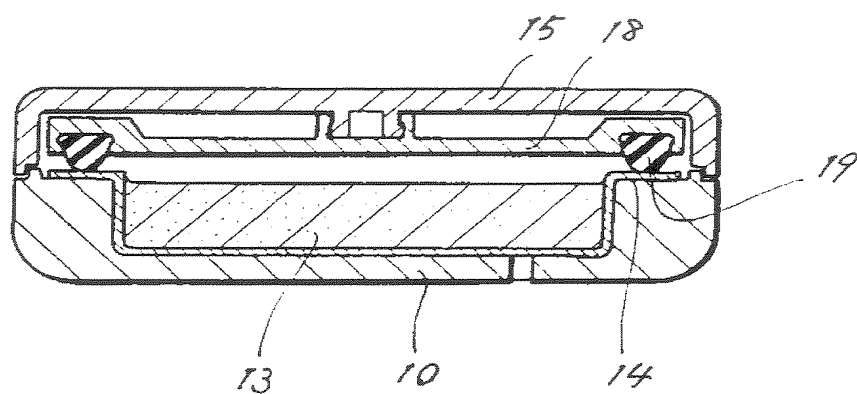
実用新案登録出願人 株式会社 資 生 堂
代 理 人 弁 理 士 竹 内 裕



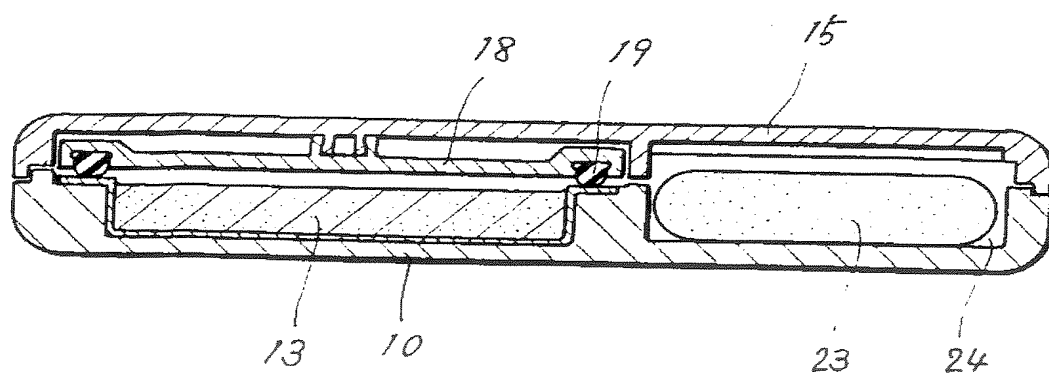
第 1 圖



第 2 圖



第 3 図



第 4 図

